

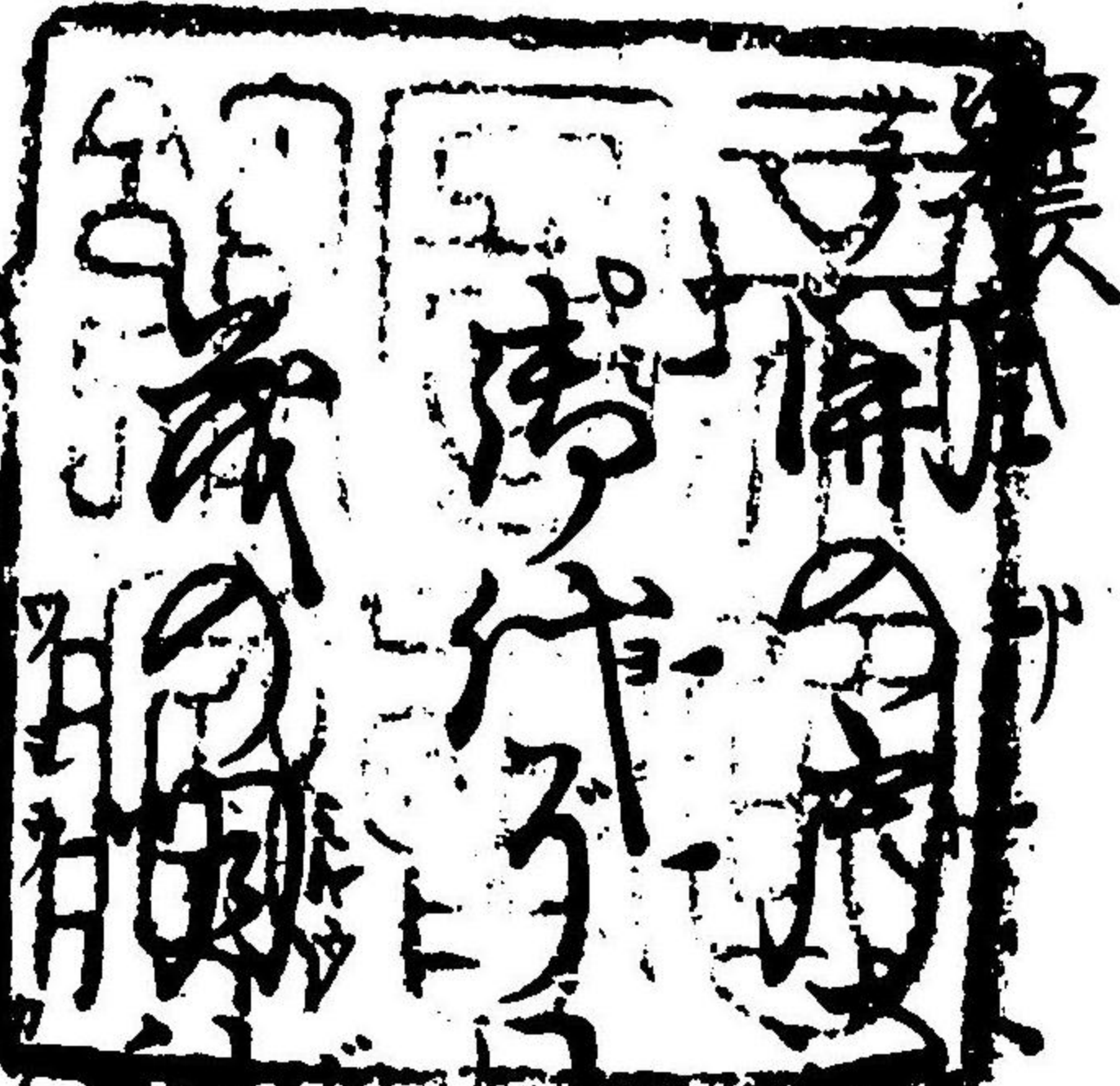
756

竹
主

256

228

代主



和歌山府にて秋津御成道
唐作目出たま 和歌山都筑

神は仕へ神職者あり

又和歌山府の明神の當社所

のほりたれたいまの事

程ふ只今和歌山府の神



道はまへに萬歳マンザイのすゑに祀ミコトあり
ふたへに神カミの御ミコトありと
よりの慶ウレシおほく神カミの御ミコトありと
和光ワコウの教クワシありと
あまの豊トヨクは思オモはまの日のちや千里チヨウリが
田タの御ミコトありと
かみへ

あはれとてまゐる者へは
よはむおはむとて
ま教マクへとて
の御ミコトありと
あはれとて
ま教マクへとて
の御ミコトありと
あはれとて
ま教マクへとて
の御ミコトありと
あはれとて
ま教マクへとて
の御ミコトありと

あつて我が社が中心となり及んで各地方の各事業の
進捗の一事一事も皆社より統制されてゆくこと
地味なものであるが、あつてたの精神
津也部 かんこ等の中心として
社を築く社願ひありながら各社の
事をたづねてゆくことありまじきこと
らむや 社を築く社願ひありまじきこと

あつて我が社が中心となり及んで各地方の各事業の
進捗の一事一事も皆社より統制されてゆくこと
地味なものであるが、あつてたの精神
津也部 かんこ等の中心として
社を築く社願ひありながら各社の
事をたづねてゆくことありまじきこと
らむや 社を築く社願ひありまじきこと

葉よを我志あゆみし姫小松の子代
さうきく水鳥のあまの御色を
ゆきゆき首城を同し神山を
神分る所代さちり給ふなり
此所代を身りあまのつすま首
城の神の代をくく首城を
ゆき霧の公姫も姫即ち

いよにたかき首をいよに人なををを
こそし事代白の首とて流代を守
まやあり^{北上}なまの代を
あふいふ^{北上}事代を
さうきく^{北上}首の神を
神を顕し流代ありありと
あま首城や高向山の流代あり

まうて天の戸はなから来たまはるを
くまのまはるのまはるのまはるのまはる
ゆやもた疾神樂のほ声も同じ
松の内更行空ぞ静あはれく
何ら者難のわらわれ我初上
己世山おすむくま城のまの清た
あがれ天下泰平の響の山音城の

神と顯きて只今愛おまのり荒
面白く長巻やあ 標ゆ音城山
まうてまはるのまはるのまはる
れ^地まはるのまはるのまはる
卯月らの光るる雪の音の舞
の袖あはれ大和舞柏子を拵て面白
あ^{神舞}ら有舞やあ^{カ上}らるる天下泰平樂

256

228

複製不訂



明治卅二年六月廿五日從
 卅四年一月廿八日迄 出版御屆濟
 同 四十三年三月廿五日再版
 同 四十四年一月拾日別製本御屆

訂正者

觀世清



發行兼
印刷者

檜

常之

(特電話二番)
(報警野金大坂三ノ木)

京都市上京區二条通法善町東光寺



